

金沢大学大学院法務研究科
2007年度「法理学」定期試験
7月27日10:30-12:00実施/出題:足立英彦
解答・解説(70点満点)

1. 規範とは何であるか、説明せよ(5行以内)、(10点)

解答 規範とは規範文の意味内容であり、規範文とは記述文と義務様相から構成される文である。

解説 「規範は規範文の意味内容である」という趣旨の記述に7点、「規範文は記述文と義務様相から構成される文である」という趣旨の記述に3点を配した。

2. 「aはbに対してGを行う義務を負う」という命題が真である場合、次の問に答えよ。(各5点、計15点)

(a) bはどのような法的位置にあるか、命題の形で答えよ。

解答 「bはaに対してGを行うことを求める権利を有する。」

解説 Gを行うのはbではなくaであることに注意。

(b) 「aはbに対してGを行わない義務を負う」という命題は真・偽・真偽不定のいずれであるか。

解答 偽

解説 両者は反対の関係にあるので、一方が真なら他方は偽。

(c) 「aはbに対してGを行うことを許されている」という命題は真・偽・真偽不定のいずれであるか。

解答 真

解説 両者は大小関係にあるので、前者(大)が真なら後者(小)も真。

3. ケルゼン『純粹法学』にある次の文章の空白を埋めよ。

「自然法則が原因としての一定の事実に結果としての他の事実を結合するように、法の規則は法律要件に法律効果(即ち、いわゆる不法効果)を結合する。前者において、諸事実を結合する様式が(1)であるとすれば、後者においては(2)である。」(横田訳(岩波書店、1935年)41-42頁)(各5点、計10点)

解答 1 因果関係 2 帰属関係

解説 2では、「当為」という解答にも2点与えた。

4. $A \rightarrow B \vdash \neg B \rightarrow \neg A$ が論理的に正しい推論であることを真理表を用いて証明せよ。(10点)

解答

A	B	$A \rightarrow B$	$\neg B$	$\neg A$	$\neg B \rightarrow \neg A$
T	T	T	F	F	T
T	F	F	T	F	F
F	T	T	F	T	T
F	F	T	T	T	T

前提 $A \rightarrow B$ が真であり、結論 $\neg B \rightarrow \neg A$ が偽である場合は存在しないので、問いの推論は論理的に正しいといえる。

解説 真理表のみの答えは8点。なお、 $A \rightarrow B$ と $\neg B \rightarrow \neg A$ は「同値」の関係にあるので、両命題の真理表は全く同じ (TF TT) となる。しかしながら、前提から結論が論理的に推論されることを証明するためには、前提が真で結論が偽となる場合のないことを示せば十分であることに注意。そのため、真理表が同じであることを理由としてあげた答えは1点減点した。

5. 刑法 245 条^{*1}の規定がないものとする。この場合において、刑法 235 条^{*2}の解釈「他人の電気を窃取した者は、窃盗の罪とし、十年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する」を、歴史的論証の方法によって正当化せよ。(25点)

解答 歴史的論証は歴史上の立法者の意思に基づく論証であり、2種類の方法(第一形式、第二形式と呼ぶ)に分けられるので、それぞれについて以下で説明する。その際、刑法 235 条の規定を R、その解釈「他人の電気を窃取した者は、窃盗の罪とし、十年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する」を R'、R を制定することによって立法者が達成しようとした目的(例えば財産権を侵害する行為の抑止)を Z とする。

[第一形式]

R' は次の二つの前提から論理的に推論される。

前提 1 R' は立法者によって望まれた。

前提 2 R' が立法者によって望まれたならば、R' は有効である。

結論 R' は有効である。

さらに、この推論で用いた二つの前提が真または正しいことを論証すれば、結論が正しいことを論証したことになる。前提 1 は立法資料などの歴史的資料によって、前提 2 は、民主主義の理念に基づいて論証することができる。

*1 「この章の罪については、電気は、財物とみなす。」

*2 「他人の財物を窃取した者は、窃盗の罪とし、十年以下の懲役又は五十万円以下の罰金に処する。」

[第二形式]

R' は次の四つの前提から論理的に推論される。

前提 1 立法者は R によって目的 Z を達成しようとした。

前提 2 立法者が R によって目的 Z を達成することを望んだならば、その目的が達成されなければならない。

前提 3 Z を達成するためには、R' が有効であることを必要とする。

前提 4 Z が達成されなければならない、かつ、Z を達成するためには R' が有効であることを必要とするならば、R' は有効である。

結論 R' は有効である。

さらに、この推論で用いた四つの前提が真または正しいことを論証すれば、結論が正しいことを論証したことになる。前提 1 は立法資料などの歴史的資料によって、前提 2 は、民主主義の理念に基づいて、前提 3 は経験科学の様々な方法を用いて論証することができる。前提 4 は一般的に正しい命題であると認められているので通常は論証不要である。

解説 第一形式の内的正当化(論理的推論)に 5 点、外的正当化に 4 点、第二形式の内的正当化に 8 点、外的正当化に 8 点配した。外的正当化の方法は、それぞれどの前提を正当化するための方法であるのか明示されていなければならない。

参考情報

履修登録数	定期試験受験者数	放棄	定期試験平均点	総合平均点
38	37	1	39.2	55.4

* 定期試験: 70 点 1 名、64 点 1 名。

以上(2007年8月3日作成)